

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
清熱剤 清熱解毒剤 1		
<p>おうれんげどくとう 黄連解毒湯</p> <p>外台秘要</p>	<p>瀉火解毒</p> <p><主治> 熱毒壅盛三焦 高熱、熱感、煩躁、口や咽の乾燥、狂躁状態、言語錯乱、不眠、吐血、鼻出血、皮下出血、下痢、黄疸、皮膚化膿症、舌質が紅、舌苔が黄、脈が数で有力などを呈す。</p> <p><病機> 実熱火毒が上中下の三焦に充斥している状態である。 火毒熾盛で表裏ともに熱盛であるから、高熱、熱感、舌質が紅、舌苔が黄、脈が数で有力を呈す。熱毒が心神を擾乱すると煩躁、狂躁、錯語、不眠が、火熱が上逆し迫熱妄行すると吐血、鼻出血が、肌膚に溢れると皮下出血が、腸の津液を下迫すると下痢が生じる。瘀熱が燻蒸して外越すると黄疸が、筋肉に壅滞し腐乱させると癰疽疔瘡などの皮膚化膿症が出現する。</p> <p><方意> 本方（黄連解毒湯）は上中下の三焦に火毒熱盛が充斥した場合の常用薬である。 黄連が主薬で、心火を瀉し、兼ねて中焦の火を瀉す。黄芩は肺熱を瀉し上焦の火を瀉し、黄連を助ける。黄柏は下焦の火を瀉し、山梔子は三焦の火を通瀉し、導熱下行する。全体で瀉火泄熱によって火毒を下降させ、瀉火、清熱解毒の効能をあらわす。</p> <p><参考> 加減法 便秘を伴うときは、大黃を加えて瀉下する。 吐血、鼻出血、皮下出血などがあれば、涼血止血の生地黄・玄参・牡丹皮などを加える。 瘀熱による黄疸には、茵陳・大黃を加えて祛湿退黄を強める。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 比較的体力があり、のぼせ気味で、いらいらする傾向のあるものの次の諸症；咯血、吐血、下血、脳溢血、高血圧、心悸亢進、ノイローゼ、皮膚癢痒症、胃炎</p>	<p>黄連 3～9g・黄芩 6g・黄柏 6g・山梔子 9g 水煎し服用する。</p>
<p>うんせいいん 温清飲</p> <p>万病回春</p>	<p>補血・清熱解毒</p> <p>主治は、熱毒壅盛三焦の経過が遷延して耗血し、皮膚の乾燥、顔色につやがない、舌苔が少、舌質が紅絳、脈が細数などを伴う。 本方（温清飲）は、養血の四物湯と、清熱解毒の黄連解毒湯の合方であり、三焦熱毒に血虚を伴う状態に適する。なお、調経の四物湯と清熱の黄連解毒湯の配合でもあり、血熱による月経不順（月経周期の短縮、月経期間の延長、不正性器出血など）にも適用する。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 皮膚の色つやが悪く、のぼせるものに用いる；月経不順、月経困難、血の道症、更年期障害、神経症</p>	<p>黄連・黄芩・黄柏・山梔子・当帰・白芍・熟地黄・川芎各 4.5g （黄連解毒湯合四物湯）の組成に相当する。 水煎し服用する。</p>